

ひめだ高志ニュース

日本共産党 和歌山市公議員

No.957

13.5.1

原やすひさを囲むっつどい

4月25日(木)夜に手平の生活相談所で宮前後援会



が、26日(金)昼は和歌川漁協で(写真は津野実さん撮映)和歌浦後援会が、原やすひさを囲むっつどい

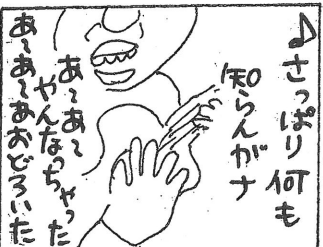
参院選めぐし学習決起集会

4月27日(土)プラザホーで日本共産党全県後援会決起集会が開かれました。党中央選対局の田熊さんは「参院選をどう闘うか」と題し、各地の地方紙の記事や参院の選挙結果などの資料を示しながら、また各地

いしを開いてくれました。原さんは、県下各地を回るなかで、日本共産党に期待する声を聞くなど昨年末の衆院選挙の様子が違ってきていると言います。和歌山県は農業の衰退によって人口減がすすんでいるとし、価格や所得の保障で農業に若い人が取り組めるよう、地方選での論戦を紹介して、政治を変えたいと願う多くの国民に日本共産党の政策を届け広げることや、りぬけば国民をどうえることができると力説しました。県下各地の参加者から活発な意見が交わりました。

フリーの人々

<740>



るようにすべきだと訴えまーした。

こんにちは
日本共産党の
ふじい 健太郎
です。
(その366)

先週の日曜日、名草山に久しぶりに登りました。標高わずか228mの山ですが、山頂付近の急勾配はなかなかのもので、山頂から市街地を手に前に和歌浦方面・加太方面を望む景観は観る者を飽きさせません。手軽に登山が楽しめる山であり、また機会を作って歩き回ってみたいものです。さて、今回の登山の目的は、広原地区で2年前から取り組んでいる「イノシシ被害対策」の一環として、山の様子を見て回ることであります。名草山近隣でのイノシシ被害は、広原・吉原に留まらず、冬野・三巻、田尻など山をとりまく周辺地区全体で見られます。今回は広原から地元の人々の案内で放置竹林や耕作放棄された山間の畑を見て回りました。イノシシに会うことはありませんでしたが、足跡をはじめ多くの痕跡を見ることができました。みかん畑からタケノコが幾本も伸びていたり、竹林の間伐材が切り倒されたまま放置されたり、山に人らしいものがあり、山に人の手が入らないことにより、被害の拡大もあるのではと思った次第です。



ふじい 健太郎
前 県公議員

災害対策基本条例概要版パンフレット

宮内閣府和歌浦の「つどい」で、私、ひめだは、和歌山市議会を初めて超党派で取り組んだ政策条例策定協議会による「和歌山市みん



和歌山市みんなとどくむ 災害対策基本条例

なでとりくむ災害対策基本条例について報告しました。この概要版パンフレット(A4カラー16頁)ができ、近々配布されます。

パンフレットを活用して家族やご近所、自治会で避難経路や避難場所、防災の備えなど話し合いを進めてほしいと思います。

日本共産党演説会

5月20日(月)夜19時～

ダイワロイネットホテル 4階第ホ-ル

山下よしき 参院議員 党書記局長代行
原やすひさ 党県副委員長

昇土

高松・和歌浦・名草北・宮前からそれぞれマイクロバスが出ます!!
乗車の申し込み、お問い合わせは 各後援会役員か私、ひめだまで(080-1415-3951)

ごんいちには日本共産党です

自己紹介を兼ねたあいさつのあと「つどい」はどの会場でも活発な懇談になる。安倍首相のすめる憲法改憲の企てに不安を感じるとの意見が多い。戦争の悲惨な体験をもっている高齢者の方は

僕は、農林漁業の再生をどの会場でも訴える。農業の衰退や環境の破壊にはみ



原やすひさ (参院選挙区)

戦争する国にすすもうとする憲法9条の抹殺には特別な嫌悪の気持ちをもっている。また「アベノミクス」の胡散臭さにも敏感で、マスコミが持ち上げれば持ち上げるほど、現実の暮らしの苦しさをのギャップを感じている。

ごんいちには、山下よしきです

私は、4月はじめ南海トラフ地震・津波対策で、和歌山市北部の本脇地区や海南市を訪問させていただきました。お世話になったみなさんありがとうございました。

各地の演説会では、安倍内閣の今の特徴は「暴走と破綻」と訴えています。

これは決めつけでも、独りよがりでもありません。「アベノミクス」と呼ばれる経済政策も「暮らしがよくなった」と実感している国民はごく少数です。矢継ぎ早の「3本の矢」には、国民の所得を増やす矢が本もなく、①投機とバブルをあおって物価を上げる「大胆な金融緩和」、②無駄と浪費の大型開発で莫大な借金を残す「機動的な財政運営」、③片側法制的規制緩和

山下よしき参院議員から、手紙が届きました。

和で、解雇自由、ただ働き自由の国をつくる「成長戦略」。加えて④「消費税大増税」⑤「社会保障大改悪」で国民にとって「5本の毒矢」です。

先日、漁業関係者が燃油高騰への対策を求めて、5年ぶりの一斉休業を決めました。よくよくのことです。

2009年7月、当時、燃油高騰へ国の対応を求めて1週間の休業に入っていた和歌山・箕島漁協を訪問。組合長さんたちから「互いに競い合っている漁業者が一斉休業することの意味を重く受け止めてほしい」と訴えられました。

懐を暖める前に、円安と物価値上げの波が襲いかかってきたことに、国民も反撃をはじめます。20日の演説会におこしください。